

## Ⅷ 各特定課題の取組を推進するための協働・普及啓発

### <主要施策の取組状況>

#### 1 丹沢大山自然再生委員会を通じた連携

##### ① 自然再生プロジェクトの推進

- ・ 県とサントリーホールディングス株式会社が協定に基づき、丹沢大山自然再生委員会（以下「再生委員会」という）の承認を得て、丹沢県有林で実施しているサントリー「天然水の森 丹沢」自然再生プロジェクトとして、小面積皆伐 [0.04ha]、列状間伐 [0.04ha] および植生保護柵 [680m]、土壌保全工 [80m]、作業用径路 [2,017m] を施工した。
- ・ また、植生モニタリング [43 地点]、自動撮影カメラを用いたノウサギの生息状況調査 [10 地点] を実施した結果、草本層の植被率が比較的高い1地点でノウサギがカメラの前を横切る様子が確認されるとともに、ヒノキ植林内のススキが優先する2地点で、採餌行動や探索行動が確認された。

##### ② **重点** 団体等との協働による自然再生の取組の推進

- ・ 丹沢大山の自然再生の取組の普及啓発を図るため、再生委員会の一員として、「秦野丹沢まつり」、「地球環境イベント・かながわエコ 10 フェスタ 2017」や「ワールドフェスタ・ヨコハマ 2017」、「丹沢大山自然再生活動報告会」に参加（一部試行）するとともに、再生委員会と各団体との共催による「森林探訪」などの活動を支援した。

#### ○主な普及啓発活動

活動名称	日時・場所	内容	来場者数
コリドー(緑の回廊) (植樹)	春:H29. 4. 22 (丹沢フォーラムと同時開催) 秋:H29. 10. 28 菩提峠、二ノ塔 (秦野市)	荒廃地や人為的影響による裸地に広葉樹等を植栽し、丹沢の環境保全を推進した。	春:98名 秋:67名
丹沢フォーラム (植樹活動と同時開催)	H29. 4. 22 菩提峠、二ノ塔 (秦野市)	県が実施する水源環境整備事業について、県職員より説明を行い、丹沢の森と水の繋がり、人々の暮らしとの繋がりについて理解を深めた。	98名
地球環境イベントかながわエコ10フェスタ2017	H29. 5. 27~28 県庁前・日本大通り(横浜市)	会員団体4団体と連携して一般県民に丹沢大山の自然再生をPRした。	700名 (推計)
ワールドフェスタ・ヨコハマ2017	H29. 10. 7~8 山下公園(横浜市)	会員団体6団体と連携して一般県民に丹沢大山の自然再生をPRした。	900名 (推計)
丹沢大山自然再生活動報告会	H29. 10. 15 日本大学生物資源科学部2号館211号室(藤沢市)	会員団体の自然再生の活動を報告し、意見交換を行った。	165名
丹沢フォーラム (ウラジロモミ等防護ネット補修事業と共催)	H29. 11. 19 堂平 (清川村)	植生保護柵や土壌保全工などの県事業を視察し、上堂平のウラジロモミ等に設置されている防護ネットの補修作業を行った。	27名

森林探訪 『表丹沢県民の森』～表丹沢の山 懐を歩こう～	H29. 11. 5 表丹沢県民の森周辺（秦野 市）	寄の集落を観察することで里山と 人々の暮らしについて理解を深め るとともに、丹沢の治山・治水の 現場を見ることで自然環境の保 全・再生と人々の暮らしとがかわ りについて普及啓発を図った。	42名
-----------------------------------	----------------------------------	--	-----

### ③ **FS** 学校教育との連携等による自然再生の担い手づくり

- 環境学習活動を通じた自然再生の担い手づくりを推進するため、NPO法人丹沢自然保護協会が、小中学生を対象に「森の学校」を開催し、自然体験や調査等を通して自然の仕組みについて知ってもらおうとともに、自然再生の必要性について考える契機としてもらった。

#### ○環境学習の推進活動

活動名称	日時・場所	内容	来場者数
森の学校	夏：H28. 8. 14～16 冬：H28. 12. 27～29 春：H29. 3. 26～28 (東丹沢)	子ども達が自然の中で生活し、人間と丹沢の自然環境の関わりを学んだ。	夏：43名 冬：38名 春：38名
ウォークラリーで学ぶ丹沢大山の森	未実施		
～高校生が取り組む！～ 丹沢やまみち再生体験	未実施		

## 2 県民協働の枠組みを通じた連携

### ① **重点** 丹沢大山クリーンピア 21※<sub>1</sub>、丹沢の緑を育む集い※<sub>2</sub>、丹沢大山ボランティアネットワーク等による連携・協力

- VIII-2-①（丹沢大山ボランティアネットワーク）、VIII-3-①-エ（山岳ゴミの回収）に記載のほか、丹沢大山国定公園を中心とする山岳地域及び周辺地域の環境保全を図り、「ゴミの持ち帰り運動」を推進するため、丹沢大山クリーンピア 21※<sub>1</sub>によるクリーンキャンペーン〔参加団体：59 団体、参加者：3,030 人、収集量：2,281kg〕や構成員であるボランティア会員（団体）による清掃活動〔参加団体：13 団体、参加者：1,605 人、収集量：1,604kg〕を実施した。
- 丹沢の緑を育む集いにより、植樹（二ノ塔山頂、菩提峠周辺）〔参加者数：165 人〕やウラジロモミの防護ネット補修（堂平）〔参加者：27 人、防護ネット補修数：43 本〕等を実施した。

- ※1 丹沢大山クリーンピア21 丹沢大山地域周辺の良好な自然環境の保全に寄与するため、ゴミの持ち帰り運動を推進することを目的として、企業・各種団体及び行政機関等の協力のもと設立された。
- 2 丹沢の緑を育む集い 丹沢大山地域で植樹事業やウラジロモミ等をシカの影響から守るための防護ネット設置事業などをボランティアとの協働で行っている各種団体及び行政機関で構成されている。

### 3 協働・普及啓発の拠点の活用

#### ① 神奈川県自然環境保全センターの自然再生活動への活用促進

- ・ 自然環境保全センターの展示・野外施設を活用した県民向けの観察会〔実施数：99回、参加者；1,899人〕やクラフト教室、自然発見クラブ〔実施数：4回、参加者98人〕、他機関からの依頼による自然保護や緑化等の研修会等〔実施数：2回、参加者36人〕を通じて、自然再生活動について考え、実践する契機としてもらった。
- ・ フィールドスタッフ（自然保護と自然体験の指導者）に対して、各々の活動を支援する研修会〔実施数：9回、参加者211人〕を開催した。
- ・ 本館2階で自然再生等に関するパネル等を展示する「企画展」を開催し、丹沢地域の自然や歴史、文化等を知る契機としてもらった。〔自然環境保全センター利用者数：23,036人〕

開催日時	テーマ
H29. 3. 7～4. 28	『無花粉スギ』ってなんだろう？～つらい花粉症をなくすために～ 無花粉スギに関する県の取組
H29. 4. 29～7. 2	自然は友だち～春夏編～ 動植物を観察した写真
H29. 7. 7～9. 30	きいてみたい昆虫のつぶやき 昆虫の体の仕組みや色の美しさなどの拡大写真
H29. 10. 3～10. 29	『登ってなおした丹沢の道』ボランティア団体による登山道補修～その十年の歩みとこれから～ 登山道の補修作業に関する取組
H29. 11. 2～12. 24	神奈川県自然公園指導員連絡会の活動紹介～美しい丹沢大山、汚すのも人、護るのも人～ 丹沢大山の現状と神奈川県自然公園指導員連絡会の活動の様子
H30. 1. 5～4. 1	平成29年度緑化運動・育樹運動ポスター原画・標語コンクール受賞作品展 絵画と標語で表現した子ども達作品

- ・ 本館展示室にVR（ヴァーチャルリアリティ）ゴーグル※1〔2台〕を設置し、稜線部からの景観や里山の四季を仮想体験してもらい、丹沢地域の自然を知る契機としてもらった。
- ・ 本館図書室、1階展示室に「丹沢大山デジタル写真館※2」を設置し、丹沢地域の自然や歴史、文化等を知る契機としてもらった。
- ・ 施設を利用しやすくするため、野鳥の鳴き声を用いた人感スピーカーや施設案内を掲載したデジタルサイネージ※3を設置するなど、施設の充実を図った。

※1 VRゴーグル	頭にかけて覗くと上下左右360度の映像が見わたせるゴーグル
2 丹沢大山デジタル写真館	タッチパネルによりスライドショー形式で写真が閲覧できる液晶モニター
3 デジタルサイネージ	従来の看板や紙のポスターに代え、液晶ディスプレイを用いて情報を発信するシステム

#### ② 神奈川県立ビジターセンターの自然再生活動への活用（Ⅷ-2-②）

- ・ 丹沢地域の自然保護関連機関の相互連携を図るため、「自然保護情報交換会」を開催し、情報共有を図った。
- ・ ビジターセンターとの連携の取組として、自然環境保全センターで実施した企画展の一部を巡回展示〔実施数：2回〕した。

場所	開催日時	内 容
西丹沢ビジターセンター (山北町中川)	H29. 5. 3～6. 29	『無花粉スギ』ってなんだろう?～つらい花粉症をなくすために～ 無花粉スギに関する県の取組
秦野ビジターセンター (秦野市堀山下)	H29. 11. 18～H30. 1. 28	
西丹沢ビジターセンター (山北町中川)	H29. 11. 3～11. 26	『登ってなおした丹沢の道』ボランティア団体による 登山道補修～その十年の歩みとこれからについて～ 登山道の補修作業に関する取組

- ・ 丹沢で活動する様々な市民団体、NPO 団体の活動拠点として、各団体が収集した情報を展示などにより来館者へ提供した。

#### 4 自然環境・自然再生情報の蓄積と発信・活用

##### ① 自然再生情報の提供と丹沢大山自然環境情報ステーション(e-Tanzawa)の活用

- ・ 丹沢自然環境情報ステーション (e-Tanzawa) を活用し、自然再生プロジェクト、展示物、企画展及び巡回展示など、自然再生に関する普及啓発を促進した。

○地球環境イベント・かながわエコ 10 フェスタ 2017

(自然再生委員会出展) [横浜市]



○ワールドフェスタ・ヨコハマ 2017

(自然再生委員会出展) [横浜市]



○丹沢の緑を育む集い 植樹の様子 [秦野市]



○サントリー「天然水の森 丹沢」自然再生プロジェクト整備後の様子 [清川村]



